

平成20年度
若手消防団員意見交換会
報告書



(財)兵庫県消防協会マスコット「消太くん」

(財)兵庫県消防協会

はじめに

消防団員は近年減少傾向にあり、若い世代からの積極的な入団は少なくなり、また現在活動している消防団員も高齢化やサラリーマン化が進み、思う様に活動出来ないのが現状です。

そうした中、国では消防団活動の多様化を図るため「機能別団員制度」の導入や、消防団活動に対する事業所の理解を深めるため「消防団協力事業所制度」の導入などの取組みが展開されています。

兵庫県消防協会でも広く消防団活動への理解を深めてもらうため、県内の中学生や事業所に対して、消防団活動をPRするリーフレット及びクリアファイルの配布や、ホームページの運営を行っています。

この「若手消防団員意見交換会」は、実際に現場で活動されている若手消防団員の意見をお聞きし、今後の取組みに役立てていくために毎年各地区で実施しているのです。

消防関係の皆様には本報告書をご覧いただき、今後の消防団運営や活動の参考にしていただければ幸いです。

なお、この報告書ではそれぞれの会場で出た意見をテーマ別に要約して記載しましたので、類似した意見の割愛や文言の加除修正等を行っていることを、ご了承下さい。

最後に、県内各地区での意見交換会に参加いただいた若手消防団員の皆様はもちろん、会議の開催にご協力いただきました各支部事務局の皆様にも厚くお礼を申し上げます。

平成 2 0 年度若手消防団員意見交換会実施状況

地区名	開催日	開催場所	参加団員数 (人)	階級内訳(人)		
				部長他	班長	団員
神戸	H21年2月1日	パレス神戸2階会議室	15			15
阪神	H21年2月7日	ホテル「ホップイン」アミニング	18	7	1	10
東播磨	H21年2月15日	高砂市福祉健康センター	19	7	4	8
中播磨	H21年1月31日	姫路市防災センター	22	7	7	8
北播磨	H21年2月13日	三木市消防本部	18	11	1	6
西播磨	H21年2月15日	赤穂ロイヤルホテル	16	7	6	3
但馬	H21年1月25日	豊岡市防災通信センター	14	1	8	5
丹波	H21年3月1日	ユニトピア篠山	15	4	9	2
淡路	H21年3月4日	淡路広域消防ビル	13	4		9
合 計			150	48	36	66

目 次

1 入団のきっかけについて	1
2 消防団活動をして良かったことや 疑問に思うこと、不安・不満に感じること	5
3 活動内容について	12
4 災害時の招集方法について	14
5 消防団の活性化、団員の確保対策について	15
6 操法について	19
7 女性消防団員について	23
8 市町村合併、団の再編成について	24
9 その他（自由意見）	25

平成20年度若手消防団員意見交換会

1 入団のきっかけについて

消防団に入団したきっかけは何でしたか。

様々なコミュニケーションを学んでいきたいと思い入りました。

幼なじみが消防団に入っており、誘われました。

父親がずっと消防団に入っていて退団したことで、執拗なぐらいの勧誘で、もう半ば強制的に入団させられました。しかし、入ってみると、思っていたほど嫌なこともなく、非常に仲よくしてくれるので、これから少しずつでも覚えていき、少しでも地域の役に立つことができたらと思います。

団長から、若い人が少ないので、ぜひ入って欲しいと頼まれて入団しました。仕事の方は水道局で働いており、仕事柄、消火栓をさわる仕事もありますので、そういうことを生かして今現在活動しています。

4年前に引っ越してきましたが、まず自治会に入ったことがきっかけでした。自治会を通して、地域の方と触れ合う、あるいは知り合うきっかけが出来、その中で色々な方と話をしている中で、消防団に1名欠員が出るということを知り、会長さんから推薦されて消防団に入りました。

入団のきっかけは、親が入っていたことと、4年ぐらい前に同窓会がありまして、その時に、たまたま同学年の友達が消防団に入っていて、誘われたことがきっかけです。昼間は仕事でなかなか出勤は難しいですが、休日の行事には参加しています。

地元の行事、例えば祭りとか、スポーツ大会とかで、もともと面識がある人が消防団員でした。当初はその人が消防団に入っているとは全く知らなかったのですが、その人のついでで、私が18だったときに、消防団に誘われ、活動内容などを教えてもらったり、訓練やっているとみせてもらったりしました。有事の際には出勤されるとかを教えてもらい、いろいろ勉強することができる点に魅力を感じて、入ろうと思いました。そういう広報とかは、企業に対して行うことも大切ですが、地元での団の良さをもっとアピールすることも大事だと思いました。

当時の分団長から入れと言われました。分団長のことは、子供のころからよく知っています、地域の祭りなどには必ず消防団の方が出られていたので知っていました。消防団が地域にあるというのは、ごく自然で身近なことでしたから入団しました。

地元へ戻ってきた時は、近所の先輩とか既に消防団にいましたので、入るのが当たり前のように、流れで入団しました。

高校を卒業してしばらくは地元の青年団に入っていました、自動的に入りました。地元にいる者は、皆断ることをしません。

人口の少ない地区ですし、地元にいるのに入っていない人は、少し変な人という扱いになってしまうので入団しました。

顔見知りの方ばかりが、何人も勧誘に来られたので断りづらくて入りましたが、市役所で働かせてもらっているというところもあって、地元にこうして貢献できることは嬉しいです。

知人が消防団にいまして、地域貢献のために入らないかと誘われて、入団しました。実は、小型ポンプ操法大会に出場させるために入団させられたようですが、操法は勉強にもなりましたし、色々な方と出会える良いきっかけを作っていただいて、良かったと思っています。

ある時、ぼんとインターホンがなって、消防団入らないかと団の方が勧誘に来られたのがきっかけです。消防団のうわさはいろいろ聞いていたので、最初は嫌でしたが、仕事柄地域の人に関わるような仕事ですし、消防団としても地域の人と関わっていくことで、その地域の人の顔が見えてきたりとか、いろいろメリットもあると思って入団することにしました。

入団のきっかけは、以前から仕事以外、また趣味以外に何かやりたいと考えていまして、ちょうどその時、祭りで消防団の募集活動があり、そこで話を聞いて、入団を決めました。

当時の分団長が、退団したいのでとりあえず頼むというふうな形で来られことが入団のきっかけです。仕事が結構忙しくて3年くらい断り続けていましたが、当時の分団長から、何もしなくて良いから入ってくれといわれて入団しました。しかし、年を重ねるごとに、下の団員も増えてきて、自分も色々な活動に参加しなければならない

状況になりまして、指導員の研修などにも参加させていただいている中で、消防団は本当に大切だということがわかってきました。現在は、それを自分だけでわかっているのはもったいなくて、下の分団員とか、知り合いの方とかに消防団員の必要性を広めていくために、自分は活動していかなければならないという使命感を感じて活動するに至っております。

消防団というのは、親の世代がみんな入っていたということが正直なところで、村の中では基本的に地元の人が代々消防団活動をしていました。私は会社勤めということで、最初のうちはお断りをしていましたが、私もいずれは農家である家を継がなければならないので、消防団に入っていれば、村の中でも顔が広がるということで今に至っております。村の中でのつながりを強固にしたり、各家の状況が全てわかるようにするために、今、消防団活動があると思っており参加しています。最初は自分の将来のことを考えただけの動機で活動していましたが、今、副分団長の立場から、後から入ってきた人の考え方を見せてもらっていると、今から何をしなければならないかを、ひしひしと感じています。今後の活動の中において、自分が今まで思ってきたこと、先輩方がやられてきたことを広めていきたいと思っている次第です。

消防団に入ったきっかけは、自分から進んで入ったわけではなく、田舎なので、人数が少ないということで入りました。しかし、入ってみたら消防車の操作など、意外というんなことが知れて、すごくやりがいが見つかったため、今は本当によかったと思っています。また、入って1年目にポンプ操法大会に出て、優勝することができ、それも続けていくきっかけになりました。今後も何があっても絶対に続けていこうと思っています。

皆さんは、消防団ということが分かれて入っておられる方が多いと思いますが、私の場合は消防団という存在を全く知りませんでした。しばらく村から離れていまして、家に帰ってきたときにいきなり消防団へ入ってくれということで、仕方なく入りました。最初は、全く知らない中に入り、何もわからない状態でしたが、よく見ると同年代やら先輩や後輩がいたことで自然と和むようになりました。このような団体に入って行動するということは、自分では見えない、人の輪というものもだんだん広がって、すごくいい場所だと改めて思いました。

消防団へ入る前は、10年程地元から離れていました。地元へ帰ってきたときに、当時の班長さんが、いきなりはっぴを持って来られまして、入団するように言われました。かなり幸せな入団をしたような気がしております。私の場合親も消防団へ入っておりましたので、いずれは来るのではないかという覚悟はしておりましたが、突然

でした。入団してまだ一回も訓練していないときに火災を経験し、それこそ何をしていいのかわからない状態で、これもまた大変幸せな経験をさせていただきました。

私が入団したきっかけは、家に帰ると、半被とお酒が一升届いていたことです。もともと私は地元に住んでいまして、成人したら消防団に入るものという意識がありましたので、素直にそれを受け入れて今に至っているところです。

私は、当時の分団長さんから勧誘されました。当時の私は、消防団は大して何もしていないのに、酒ばかり飲んでいる団体だという考え方を持っておりました。それで、1年間無視していました。すると暫くして近所で火事が起きまして、消防団に入っていない自分は何もできなかった一方で、周りの年の近い人達が消防団に入って消火活動をしているのを目の当たりにしたことがきっかけとなり、次の日入団させてもらいました。

地元で働いていますが、4月に職場の上司から消防団を勧められました。人との交流が増えて、仕事の悩みなど色々と相談もできると言われました。実際入団しなかったら、職場で肩身の狭い思いをするかもしれないので入団しました。

僕の知らないところで母親が入団の返事をしていました。入団と同じ年に、地元の祭りにも出させていただくことになりました。そこには消防団の方もいらっやって、こういう方々と一緒にできるのであればということで、どんどん消防団活動に参加していくようになりました。

2 消防団活動をして良かったことや疑問に思うこと

消防団に入り、様々な経験を重ねてきた中で、入団して良かったと思うことはどんなことですか。

また、活動に対する疑問や不安、または不満などはありますか。

【良かったこと】

実際に災害のとき出動した回数は4年の間で4回くらいです。消防団の役目というのは、例えば火を消すことだけでなく、やじ馬を交通整理し、後片づけまで一応お手伝いという形でした時に、初めて役に立ってるという実感がわきました。

消防団へ入団してみたら、皆さん色々な業界の方々がいらっしゃって、実績や経験をお持ちの方が多く、学ぶことも多いし、私のことを気にかけて下さいました。私自身、本当に会社と家の往復で、世間が狭かったので、そういう意味では人間関係が少し広がってよかったと思います。

ささいなことですが、あいさつしてもらえたり、顔覚えてもらったりという、その地域になじんできたという嬉しさがあります。

地元の固まりが強いので、新しく入ってきた人間からすると、中に入る糸口になると思います。

町内から感謝されます。年末の特別警戒は自治会や青年会も回っていますが、地域によって日は違うと思うのですが、団の場合、26日から31日まで回っています。皆、年末はそれぞれに忙しいです。自営の人にとっては、一番慌ただしい時期です。でも26日からということは毎年決まっていますから、一応7時ぐらいには詰所へ寄って、12時頃まで回っています。最初のときはしんどいと思いました。しかし、活動している時に地域の人と会ったりすると、詰所に寄って、ご苦労さまと声をかけていただく方もあり、そんな時は、やっつけて、この地域のために役に立っているんだと嬉しくなります。

年末の特別警戒している間に火災がないと、地域のためになってるのかなという気持ちになり、やっつけてよかったと思います。日頃の地道な積み重ねが全体のプラスになって大きな結果に繋がっていくと感じました。

引っ越してきて、消防団に入ったことで、これまで全然知らない人と顔見知りになり、すれ違ってあいさつ等ができるようになって、よかったかなとは思っています。

入団するまでどこの誰かわからなかったのですが、団活動で知り合いが多くなり、この人は村の人かどうかということもわかるようになりました。

地元の方との接点ができるというのが一番よかったと思う。加えて、ふだん接することのないAEDや消防器具の操作を学ぶことができ、非常時にも自分で対応できるんじゃないかと思いました。

入団して初めて分かったことですが、年齢層が幅広い。私達の分団は、若い人でも30歳ぐらいですが、上は定年間近の人までいて、結構年齢層が幅広いです。普通のつき合いでは、そういう幅広いつき合いはできませんので、この点はとても良いと思います。

私は消防団とは、火事があったら火事場に出動するだけが消防団の活動ではないと思います。火災予防運動などの啓蒙活動を行うことも大切。女性の声をマイクにおさめて、それを消防車のカセットに備えて、1週間全員が30分かけて村を回っています。そういった活動で、最近自治会長から褒めていただくことが増えました。

人工呼吸などを学べてよかったと思います。最初は嫌々参加していましたが、団活動に参加する中で、色々自分自身の勉強になってるかなというのを感じています。

消防団とは防災の担い手であるだけでなく、コミュニティーの場として、昔の同級生などが集まる場として、楽しい場であると思います。

【疑問に思うこと、不安・不満に感じていること】

村に人がだんだんいなくなっています。サラリーマンの方々は遠くに行く人が多いのでなかなか昼間や夜間はいないとか、結婚で男性が奥さんの方へ行ってしまう、せっかく入団してくれていたのに途中で抜ける人が最近出てきています。このまま団員の人たちが年を取り、高齢化が進むと、将来的には消防の活動ができなくなるのではないかと危惧しています。

私は基本的に平日しか休みの無い仕事で、土日に消防団の活動があると個人的には出たいのですが、ずっと休めないという現状の中で年数が経っています。

若い人がなかなか入ってくれないということが心配です。入ったら何があるのかということを言われます。何かしんどいし、たくさんお酒を飲まされて、それで上の人から偉そうに言われてというイメージがあるようです。

一般の人は、消防団と消防署の違いを分かっていないと思います。町から尊敬される存在になれたら良いですが、どちらかという、消防は無茶するというイメージがあるようです。

勧誘に行くと、本人に会わせていただけず、親から断られる。そのお父さんは一生懸命消防団活動をしていて方が多いです。どんな気持ちで活動されていたのか、自分の時にどんなにしんどかったのか分かりませんが、残念です。

サラリーマンなので、仕事もありますし、子供が3人で、一番下がまだ小さいので、なかなか出て行きにくいです。土日の活動に関しては、妻はあまり言わないのですが、操法が始まると、どうしても昼間に練習ができないので、夜になります。すると、だんだん妻の機嫌が悪くなってきます。団活動は、町内会の理解も得なければならないのですが、家族の理解を得ることが一番の苦労だと思います。

命懸けで地域を守るというのは素晴らしいことなのですが、仕事を急に抜けることまでしなければいけないのかと思います。仕事を休んだり、抜けるわけにいかないという人はたくさんいます。

僕は、頭のどこかにできれば出勤しなくて良いことにしてほしいという意識があります。しかし将来班長などになったとき、出勤しなければならないし、なおかつ仕事もしなければならないとなると、勤務先との関係が心配です。経営者が納得してくれるようなやり方にしてもらったら、出勤しやすくなるのではないかと思います。

昨年ぐらいまでは、消防団の活動に出てくる人が多かったのですが、不況と言われ出してから出てくる人が減っています。地域には、どんな人が新たに地域に入ってきたのかもわからないので、自治会長さんなどに頼んで入れてもらうのですが、そういう人はあんまり続かないのが実態です。親戚とか団員のしがらみとかがあれば、なかなかやめられないのでずっと続きます。

今の若い人の考え方がだんだん違ってきています。私たちが若い頃は消防団ではなく、その各村々の自主消防には絶対に入らなければならないというようになっていて、その延長線上に消防団もありました。私達の分団は、最悪定員割れになるかもしれないという不安があります。

入る前と入った後で違うところは、私達は地域のために、消防団として一生懸命頑張っているのですが、地域の方々はそれを当たり前のように思っています。例えば警

備です。一つの小学校の警備をすると、別の小学校から要請があって、消防団員が休みをとれないということが実際に出てきており、いわゆる小間使いみたいな形で使われてるのかなと思うことがあります。

私が所属している分団は、地元の方が大多数です。非常に過ごしやすく、分団内での不満もほとんど無く、楽しくさせていただいています。私の場合は、地元と離れた場所で仕事をしているので、なかなか会社の協力が得られないことが悩みです。何か本部の方からも働きかけをしていただければ、消防団活動もしやすくなるのではないかと思います。

訓練は結構出ているのですが、実際に火事になったときに訓練と同じように行動できるのか、自分が役に立つのかという心配があります。

火事の際の無線が聞きづらくて、情報がうまく伝わらなかつたりするので、そのときの対処の仕方がわからないということが不安です。

後に入って来る人がなかなかいないので、辞めにくい状況になっていると思います。団の人数も少人数ですので、訓練や操法大会など、負担がかかり過ぎる部分があると思います。

先輩から、新入団員を入れないと来年からしんどくなるのはおまえだと言われており、自分の周りの友達を誘おうと思うのですが、無理やり入れて幽霊団員になってしまうと周りに迷惑をかけてしまうと思い、新入団員を入れるためにはどうしたらいいかということに悩んでいます。

少子化が進んでいますので、5年後、10年後には、さらに団員が少なくなっていると思います。また個人的には、会社の方も消防の方もどんどん役割が増えているので、両立できるかが今一番不安に思っていることです。

消防団ですから規律があるのは理解できますが、服装とか細かく言われ出した気がします。活動服の下に色々なものを着ているのはだめだと、それは消防団では無いという言われ方をされます。余り言われ過ぎると理解というよりは、不満がたまるとは思いません。

僕は、次男で親と同居していないのですが、結婚して子供が出来ると、団活動で家を留守にする際、嫁さんに負担がかかっていると思います。

困ってることは、分団員の確保もそうですが、実際確保はできていても、会社員が多いので、なかなか実際に火事があったときにすぐ駆けつけられない点です。仕事の都合でどうしても来れないという人が多くて、出席は決まった人間になってしまいます。そういうのを何とか満遍なく平等にする形はないかと考えています。

私は、仕事が営業なので地元から離れた場所へ行っていることが多いです。一応分団長をやっておりますので、メールが入ってくれば遅れてでも火事場の方に向かうようにはしています。しかし、着いた頃にはもう終わっている状況の時もありますので、電話で分団員とやりとりをしながら、自分の代わりに指示してもらったりしています。

招集が多いです。市単位だけではなく、地区単位もあります。地域の招集とか入れると、ひどいときは月10回ぐらいあります。そういう時に下の者に電話すると、集まりが難しい。火事の場合はやはり一番大事な仕事なので、来られる、来られないに関わらず、モラルとして、無理してでも来てくれますが、その他の招集になると、出勤人員を少しでも削っていただいた方が上は楽です。

私は分団長ですが、この先若い人間が自分達の活動を見て、最低限でも受け継いでやってくれるのかという不安があります。

私達の地域はかなり操法に熱が入っているので、その時期になると、練習で、どこの家も家庭の中が険悪なムードになってきます。

会社自体は、地元の消防団へ入っている人が多いので理解はある方です。出勤証明書をもらえば、有給扱いになっています。

村の行事には消防として絶対参加します。運動会やらクリーン作戦にも参加します。問題点と言えば、人数が集まり過ぎて、飲食代がかかり過ぎになっています。とりあえず補助がもう少し欲しいです。

私達の団も年々予算が減ってきています。服に関して、今年の新入団員は町で持ってもらえますが、来年からは持ってくれないということで、制服まで予算が回らないそうです。だから、自分で買わなければならないのです。そんなことを言われたら、なかなか入らないと思います。今後消防団で払うのか自治会で払うのか、自治会に理解がなければ消防団と個人で半分ずつにするかという現状になると、勧誘もしにくい。元消防団員の服を着回してもらおうという話もあります。消防本部の消防士さんはある程度の志を持って入っている人かもしれませんが、消防団は少し違って、ボラン

ティアですし、皆の理解があってこそ活動できるので、その辺をもっと上の方に分かっていたら、協力してほしいです。

消防自動車の更新ができない状況です。乗りつぶすまで乗ってくれと言われていません。

最近の消火栓には、凍結防止のバルブが一つ追加になっているのを知らない消防団員が結構おります。そういう指導を行政の方から、もう少ししてほしいと思います。水道課との連絡が不十分だと思います。

幽霊団員の問題が非常に大きくて、懸案事項として上がっているのは、こういった人の退職金をどうするのかというところ。年数的には大方18年、15年という方がたくさんいるのですが、実質出ているのは1年、2年で、そこからは顔見えていない、もしくは名簿上は残っているが、ここにいないという状況があります。

地下式の消火栓で一番困るのは、ふたがあきにくいということです。土が詰まってしまったり、1ヶ月くらいでがちがちに固まってしまうのがあります。それと地下式の蓋よりも、格納箱の方が目印的なものになります。地下式をつける位置の関係で、格納箱と地下の消火栓との位置が少し離れていることがあって、例えば、消火栓の方は場所が十分確保できているけれども、格納箱の前に大きな車が1台止まっていて、引っ張り出しにくいとかというようなことは、実際ありました。

若い人の価値観や、物の考え方が大分変わってきていると思います。お互いがお互いを守っているという考え方が欠乏してきているのかなと思います。

最近、可搬式ポンプが壊れました。しかし、今は部品すら無くなり、同じ規模の物を新しく入れようとしたら、100万円を超すようなことを言われました。そのお金がどこから出るのかという話になり、まだ直せずにいます。消防団の中で、昔からの流れを継承しなければならないものもあれば、部品とか、器材に関しては見直していかなければならないと思っています。

消防団の活動というのは、市内のあちこちでやっていますが、世間の目から見ると、消防署の活動と消防団の活動というのが同じに見えるのが正直なところだと私は思っています。というわけで、緊急出動しても、消防署の人と同じ扱いをされるので、私達が少しでももたもたしているとやじが飛んできます。消防団が、消防署の後方支援というのは間違いないところですが、やはり周りの人はそう見えないから、消防団

がしている活動が分からず、結果的に消防団への入団を拒否されることに繋がっていると思います。

消火栓は最近、地中式になっています。水道管に直接筒先がつくようになっていて、積雪があるところにとっては非常に都合が悪いです。積雪時、使おうと思ってもはっきり言って使えません。雪がやんだときには、それぞれ団員が出てきて、自分の家の近くの消火栓はあけるようにしているのですが、雪が降っているときに、除雪車でがばっとまた雪に埋もれてしまうようなときもありますので、少々高くても、やっぱり地上式の消火栓にしてほしいと行政に対して要望します。

僕が思うのは、地上式の消火栓のレバー、バルブを開くレバーがちょっと短いというのがあって、さびていると回りにくいです。私たちがやれば力を入れて早く回りますが、近所には高齢者の方が多いので、少しレバーが長ければ回しやすいのではないかと思います。

地区で下水が入ったときに水道の本管をやり直すということがありまして、それまで地上式だったのを全部地下式にするということを市から言ってきました。それを受けて、村の中で会議を開き、全部地上式で、今までどおりやってほしいということ、当時の消防の役員と区の人と一緒に市へかけ合い、地上式を残してもらったという経緯があります。私も個人的に、雪の降るところはぜひ地上式の消火栓がいいと思っています。

格納箱と消火栓との位置の違いというのは顕著に出てきます。地下式につけかえたので、場所を変えなければならなくなったとき、美的に嫌だからつけるなという家があったり、車を置くのでつけるなという家があったり、その折り合いをつけるのが難しいです。

3 活動内容について

それぞれの消防団では、日頃から災害に備えて訓練をしたり、また災害時の消火活動だけではなく、平時から火災予防活動など様々な活動をされていますが、各団でどのような活動をしていますか。

私達の団の団長の方針で、消防団は火を消すだけではなく、市民の健康という意味でも活動しなければならないということで、A E D、あとC P Rの方も女性団員は全員資格を持っています。男性団員も数名、応急手当普及員の資格を取りまして、自主防災訓練などがあれば、市民の前で講習をし、A E Dないし心肺蘇生法を教えています。一応救急救命士に立ち会ってもらい、その中で我々資格を持っている人間が説明をし、間違ったことを言ったり、わからないところはフォローしてもらっています。

まず月に一、二回程度、機関点検をかねて放水訓練を行っています。あと年に1回地区消防団合同で、山林火災を想定した中継訓練を行っています。あと春の火災予防運動の時期に、実際消防署と消防団機動分団合同の山林火災防御訓練、新入団員の礼式訓練、機関訓練を行っています。操法の年にあっては、地区の大会が行われる1カ月ぐらい前から集中して操法の訓練を実施しているような内容になっています。

私たちの分団では、年に6回ぐらい中継訓練をしまして、1月頃の重要文化財の訓練のときに、当日に時間・場所を指定して中継訓練をするという、突発的な訓練の仕方もやっています。部においては月一に定期集会をして、放水訓練とか消火栓の点検などをしています。

私は一年間部長をさせてもらいまして、その中で自分の取り組みの目標として、団員全員がポンプ車の運転ができる、あと機関の操作が一応全員できるようにしようと、活動してきました。

私達の分団では、年1回活動内容を記事にした新聞を作り、市の広報に挟んで配っています。

P R活動の一つとして、パトロールを行っています。最近、変質者やひったくりが多いので、地元の自治会とか子供会、P T Aの役員さんと共同で、月に1回夕方とか夜にパトロールをしています。

昔から住んでいる村の人間が、子供会、青年団、消防団になるのは決まっているようなものなので、地元の人達も消防団は何をしてきているのかということもわかっ

ているし、あえてPRする必要はないと思います。何年か前からは、集まって放水活動を行ったり、年末警戒にしても車ではなく、拍子木を持って歩いて回っています。最近では寒い中ご苦労さんと声をかけてもらえるので、村の人達がやっとわかってきてくれたように思います。だから、あえて今からPRしようという気持ちはありません。

部落の秋祭りに参加しています。小さなだんじりを出すレベルですが、昔からやっています。だんじりを押すことが消防団の担当みたいな感じでやっています。

新しい試みということで、お年寄りや婦人会などコミュニティーの方を対象に救急車が来るまでの対応についてということで、パワーポイントを使用し講習を行っています。

地元の行事に消防団のスペースを借りて活動の方法とか紹介だとか、CPRとか心肺蘇生の方法を展示したりしています。また、地元の自治会主催や小学校主催の防災福祉コミュニティーで、防災への取り組みということで、地元の人とか小学生を集めて運動会みたいにバケツリレーを行ったり、消火器の使い方を教えたりしています。その時に、プールの水を利用して、放水訓練を兼ねてアピールをしています。

分団の中で広報部を作り、年に数回新聞を発行し、消防団の活動について紹介しています。それを発信することによって、地域の人からの見る目を変えていけるのではないかと思います。小さい子供たちは結構興味があるみたいで、練習するときに来てくれています。そのときは、まあよく来たねということで、やっています。すぐに分団の活性化につながるかわかりませんが、15年先ぐらいを見越したような活動もしているのかなと感じています。

私達の地区では、小学校で1月に1・17を忘れるなという防災訓練があります。それに地元の消防団に出てくれないかという話が来まして、小学校へ行って実際に避難誘導をしたり、放水をしたりというのをやりまして、15年後ぐらいを見据えて、壮大な計画のもとに、お父さん達の格好良いところを見せています。私が指示をするのは、子供に一番格好いいところを見せろということです。そういうコンセプトのもとに防災訓練に参加をすることで、子供たちが将来消防団員になりたいというような話ももらっています。というわけで、15年後を見据えた壮大な計画を毎年続けていこうという状況です。

最近の活動というと、2年ほど前から操法のときに献血車に来てもらって、出場しない団員や見学されている人たちに空いている時間に献血に協力してもらっています。

冬は積雪が多いということで、12月の時期には消火栓の目印になる旗を立てたり、また、林野火災の際のポンプカーの中継訓練を、半日かけて行いました。

特に積雪が多くなって、路面が凍結したときに消火栓の位置がわからなくなると困るので、そういうときは集まって、みんなで探しています。それ以外は年二、三回ぐらい、消火栓のふたがあくかどうか、中に水が入っているかどうか、泥などが入っていれば、それを除去して市に報告をしたり、水出しまではしませんが、動くかどうか確認しています。

私の分団では、分団員数が20数名で少ない割に、結構広い範囲を担当していますが、団員の9割が外で働いていて、いざ火災が起きると、集まれるのはほんの数名に限られています。それで、初期消火訓練ということで、消火栓を部落の人がきっちり使えるように、消火栓とホースと筒先を使った訓練を実施しています。

当初、消火方法等の指導は、消防署の人が来て、私たちは補助的役割でしたが、最近では自分達でシナリオを立てるようにしています。それをすることで各団員が、自分の地区にある消火栓等に対する意識が高まり一生懸命覚えようとするし、地区の人にも消火栓の位置を再確認してもらうことができます。積雪等のときには特に使い勝手が悪くなるし、消火栓の上に車を駐車されているという例が実際に結構ありましたので、その辺のところを地区の人に気づけば、すぐに近くの消防団員に声をかけて対処をするように言ってほしいということを行っています。

4 災害時の招集方法について

災害現場に早く駆けつけるためには、情報の伝達が重要になります。団員招集のためにどのようにして情報を伝えていますか。

台風などのとき、消防庫待機を行っています。

各団員への招集の方法として、自営業の方から連絡が回るという方法と、小隊長より分団長へ連絡があり、そこから団員へ連絡する方法があると思います。

主に分団長から部長に連絡が行きます。部長から集まってくれということで連絡を受ければ、ポンプ庫へ集まるという形を基本的にはとっています。

定期的に小学校区単位で防災訓練を行っており、まず地震が発生したという仮定で

防災訓練を行って、市としては災害が起こったということであれば、特に連絡をとらず、皆ポンプ庫へ集合ということを取り決めています。

当市では各団員が入団する際に、携帯のメールアドレスを消防署の方に登録しています。災害があった際には、消防署の管制の方から一斉に団員にメールが送信されます。場所と災害内容が記されたメールが団員に送信されるので、それぞれ該当する団員はそれで情報を知ることができます。該当する部とその上部の分団はそれぞれ出動するという形になります。実際、自営をされている方が出動されることが多いのですが、夜の待機には分団長から部長へ、部長から団員へというふうに電話で連絡を回すという形になっています。

当市では火災が発生すると、団長と、各地区担当の副団長にメールが一斉に入ります。それをもとにして、各地区の分団長に連絡をおろして、またその分団長から各地元班に連絡し出動してもらうという形になります。その前に消防本部からも地元班に連絡が行くようになっています。

5 消防団の活性化、団員の確保対策等について

全国的に消防団員は減少傾向にあり、団員の確保が大きな課題となっています。消防団の活性化や団員の確保対策等をどのようにしていますか。

私が勤めている会社は建設会社ですが、私の所属する分団の半数ほどがその会社の従業員ですので、会社で入団促進をさせてもらっています。秋に安全大会という行事があり、その中で消防団の活動状況を報告させられたり、消防署の人をお招きして、AEDの講習をしていただいています。

私の地区は、昔から住んでいる地場の人と新興住宅地とに地域が分かれおり、私が幼い頃は、祭や消防活動には地場の人だけで、新興の人は全く関わってこなかったのですが、人数が少ないからということで次第に新興住宅地の人でも消防団に入ってくるようになりました。

僕の場合、最初に声をかけられたときは、面倒くさいとか、休みの日はゆっくり休みたいというのが一番にあったので、ずっと断っていました。しかしあるとき、声かけて下さる方が言った言葉の中で、僕が村の活動に参加するようになれば、自分の子供も認知してもらえる。村の校区内だけでは無く、色んなところの人たちに覚えてもらいやすくなる。そうすると、自分の子供に関して、見る目が増えるという言葉が

きっかけで、地域の活動に参加してみようかと思いました。個人的な考え方は色々あると思いますが、物だけではなく、自分の子供や家族に関することなどを、ずっと突き詰めていくような内容で話を進められたら、勧誘もうまくいくのではないかと思います。

私たちの地域は、お祭りに熱心なところがあって、まず消防団を経験しなければ、祭りにも寄せないというような風潮があります。

私達の地区では、消防団と中学生の交流事業をやっています。放水の訓練をしたり、消火器の訓練をするところもあれば、遊び、レクリエーション、バレーなどをして、交流事業をしています。

団員確保のためには、団員の定年を上げたり、幅を広げなければならないのではないかと考えます。退団するのは自己都合ですが、まだやりたいという人でも定年になるとやめなければならなくなるなら、定年を上げないといけない。高齢化にもなってきたいるのだから、そこまでは考えるべきだと思います。

私達の町は、漁師や自営の人、サラリーマンがいます。自営や漁師は、平日活動し、土、日はサラリーマン部隊が活動するというように完全に分けています。そうしないとやっていけません。しかし、年末警戒だけは必ず皆でやるということにしています。

若い人は、何か魅力がなかったら入団しません。例えば、もっと報酬を上げるとか、勧誘する側としても、誘い文句になるものが欲しい。

私のところは、割と横同士のつながりが強いので、自然に消防に入って、みんなで楽しむ雰囲気が出ています。1回火事場へ行ったら、みんな意識が変わると思いますが、楽しみを前面に出していかないと勧誘は無理なのかなと思います。本当は反対だと思いますが、若い人達に、楽しんだ延長上に消防はあるというようなとらえ方をしてもらったら、多少は、肩にかかった責任の重さをフォローできると思います。

若い子を入れるだけでなく、やめた人を入れるのも確保の仕方だろうと思います。

村で消防団として祭りの練習や運動会、演芸会にもできるだけ参加しています。消火栓の点検とかでもポンプ車を使って、できるだけ見せるような活動もしています。消防車で回っているときに小さい子供がいたら、気軽に乗せてゆったりして、身近に接することができるようにはしたいと思います。

私達の分団は数年前まで出席率が非常に悪かった。何か用事があっても、決まった人数だけ二、三人が出てきていましたが、3年前から趣向を変えて、消防団のメンバーでグループを作り、活動するようになりました。野球チームをつくったり、町の夏祭りの出店とかに参加していたら、自分達も参加したいということで、若い人が入るようになりました。今までだと、若い人と年の差があるので、コミュニケーションがなかなかとりにくかったのですが、今は親しみが出てきて、皆が自然に集まるようになっていきます。

昔でしたら地場産業というか、漁師、農家、自営業につく若者が多かった。今はもうほとんど会社員として外へ出るので、地元に残っている人間が少なくなります。その少なくなった人間を確保するには、まず年の近い若者に話をしに行かせて、その後役付があらためて話をしに行っています。

消防団以前に、地域の集まりやソフトボール大会などで、同級生の中で地元に戻ってきているのは誰かなど、常日頃から情報を集めたりなどの活動を行っています。

団員確保の難しさについては少子化や、若い人の意識の変化が原因だと思います。帰宅後の自分のプライベートな時間を大切にしたいというところが強くなってきていると思われれます。最近では定数を減らしたらどうかという話も出ていますが、若い人口が減ってきているなら、見直さざるをえないと思います。しかし、消防団の存在意義を考えた場合、それぞれの自治会の事情、自治会としての消防団に対する思いというものもあると思いますし、簡単に減らすということは難しいと思います。火災等の時、常備の人達が来ますが、地元のことをよくわかっているのは、当然地元の消防団ですし、鎮火してからも残火処理ということで長い時間、地元の団がついて見ていたりなどは、非常に重要な役割だと思います。

ある県か市がやっていたと思うのですが、工場とか会社と提携して、その会社の中で何人が団員さんを入れてもらうというものです。その理由というのが、いわゆる高齢化で、その地域に昼間はいない、その中で出勤出来る人というのは、やっぱり周りにある会社に勤める人。企業に協力をしてもらう形にすれば、何かのときに対応できるし、会社の方も地域に貢献できるということをニュースで見ました。

学生にはなかなか声をかけづらいです。地元から通っていても就職はまた全然違うところで考えると、4年ぐらいで終わってしまいます。ですから声をかけるとしたら卒業されて、就職後ですね。最近では本人さんが断られるのではなく、両親の方から断りの電話があったり、連絡があったりするのです。つらいです。

子ども達に対して、消防車の前で写真を撮らせてあげるとか、行事ごとに消防団が参加するとか、できるだけ子供に消防団をアピールしていくべきです。もともとその土地に住んでいる地元の子供たちは消防団を知っていますが、引っ越しして来た人たちは、ただ単にボランティアでやられているというふうに見られることがあります。

私達の町は、地元の人と新入居者の人の比率が逆転しています。町の中だけでは確保ができないですし、新しく入られた人との繋がりもつかめないう状態がありまして、新入居者の方を積極的に勧誘をしています。

かつては自営の人が中心になって団をやっていましたが、最近はサラリーマンが非常に多いです。いざ出勤なり訓練なりに出るにしても、有給休暇やボランティア休暇で参加されるというのが大半だと思います。参加される方は有給休暇などで、身が削られるわけではないですが、事業所の方としては困る部分があります。そこは行政なり消防団から、事業所へのアプローチというか補助や依頼というようなことが必要だと思います。以前、事業所の社長と話したことがあったのですが、その事業所には消防団員が8人いて、火事があった際に8人が出てしまったから、自分一人しか事業所に残らなくて、その日仕事ができなかったということを言っていました。しかし、地域に対する貢献という思いから、そのまま受けているそうです。そのような善意に甘えるのではなく、もう少しちゃんとした契約なり対応なりができるようになったら、サラリーマンも出勤しやすいし、事業所としても出しやすいのではないかと思います。

消防に入るきっかけが、皆必ずしも地域防災の一端を担うという思いでは無いと思います。地域コミュニティーの一つとして参加している人もいますが、自分達は地域防災の責任者だという意識づけをしていくことが重要ではないかと思います。そうでないと、参加率も上がらないし、意識の強い人を育てていけないと思います。

今年は、初めて子供会に呼びかけをして、初出の後にポンプを動かして、子供たちに見せたり、消火栓を動かしたりしました。お父さんが地域でこんな活動をしているということを見せた後に、みんなで一緒にご飯食べたのですが、子供にそういうところを見せるのは、地域での活動を意識づけするのに非常に有効だと思います。

消防団の役割と、位置づけが時代とともに変わってきていると思います。かつては、消防、消火の第一線という格好でしたが、今は既に常備消防がどこでも整備されていて、後方支援がメインの活動になってきています。予防消防だとか、災害時は人員の確保だとかいうようなことになってくると思いますが、きちんとした方向付けが必要だと思います。常備消防があり、特設分団という特別な分団をつくっているところも

いまだに残っています。ある程度、地域で統一された方向づけやあり方を示したほうが良いと思います。縁があってみんながその意識で活動していくということでないといけないと常々思います。それぞれの地区によって活動が違うということがありますが、いざ火事になったときに、消防団と常備消防の役割分担を、あらかじめできるものならしておきたいわけです。そうすると仕事がしやすいですし、出動するときの心構えも違うと思います。

定員についていつも思うのですが、絶対に定員がないとだめなのかと思います。あえて定員を満たすため、お化け団員が現に五、六人います。そこまでして定員を満たさなければならぬのかと疑問に思います。確かに僕らもサラリーマンだし、年末警戒には行きたくない。それでも仕方がないと思いやっています。地元にいる僕達がそう思っているのに、他の人に喜んで入ってもらうのもちょっと難しいと思います。だから僕たちは良い子を見つけたら飲みを誘います。飲ませて仲良くなると、もう必然的に入れてしまったみたいなので、ずっと飲ませておいて、知らない間に入れてまうというような手を使っています。

うちでは基本的に村の中でおさめています。もちろん後から引っ越してきた新しい人もいます。村の人以外でも入りたいということをつまに聞きますが、基本的にうちの分団の中ではNGということになっております。

6 操法について

操法に関してどのように感じていますか。

市の方は操法大会を隔年でしていると思いますが、郡部も一時期そういう話が出たと思います。水出しではないときも、するという方向に決まったということですが、全国大会につながるときだけ、水出しにしてもらえると、予算的にかなり浮いてくると思います。

私達は、1カ月間毎日練習します。それでよく若い子が、いったい何になるんだと言うけれども、実際に火事場に行ったときに、頭が真っ白くなって動けるか、動けないかというのが、操法に出ている者と出ていない者で各段に違ってきます。ホースをぱっと渡されたら、実際にどのようなやり方をしていたか、どうやって繋ぐのかということ、一応選手になったら、一通りのことはできるように覚えるので、火事場のけがも減るのではないかと思います。

操法は、選ばれた者だけではなく、周りのサポートがあってできることです。

2・3ヶ月前から練習をしています。選手の仕事の関係で夜練習に参加出来ない人のために、朝に練習しようとしたのですが、実際は起きられないという現状があります。

最近やっと操法で強くなってきました。操法は、風土というのか、例えば先輩が優勝したり、準優勝したとなると、その後も続いていき、強くなります。先輩がこんなにやっているから、僕らも見習わないといけない。見て育つ、そういったものが操法の強いところができる原因だと思います。

村によっては、練習ばかりせずに違う部の練習を見に行ったり、一緒に練習したりしています。村の練習枠にとらわれず、色々な練習方法を見たりして勉強になると思っています。

操法の練習場所を探し出すのが難しいです。あと、投光器を用意したり、準備が大変です。準備の時間が縮まれば、練習だけに費やせると思います。やはり練習場所の向き不向きもあって、いい練習場所を持っているところは強いと思います。

僕達のところは、最初グラウンドでタイムだけある程度形つくってから水出しの練習をします。

市から割り当ててもらった場所は、ホールの駐車場です。消火栓を使って、水をためて、晩6時ぐらいから10時まで行っています。場所とりはそれぞれですが、的当て等を準備してもらって、あとは自由に使わせてもらっています。時々小隊長が、どういう状況か見に来ています。

僕等は水出しのときは、アスファルトの駐車場で行っています。池も近くにあるので池から水を引くときもあるし、消火栓からの時もあります。もちろん消火栓を使うときは周りに断りを入れてからです。水を出さないときは、小学校が近くにあるので、小学校の駐車場で行います。駐車場が狭いので、その建物と駐車場の間の農道を占領してしまうという状況です。

庁舎裏の駐車場が、端から端まで100mで、防火水槽もあるので、操法がちゃんとできるようにラインも引いてあります。メジャーを持って図って、前準備がすごくかかるので、アスファルトのところにもともと線が引いてあれば、すぐに練習を始められ、1時間ほどですと帰ることができると思います。

アスファルトではなくて、陸上競技場のゴムみたいなところだと、足への負担が少なくて良いと思います。そのようなものが、各地域に一つあれば良いと思います。

今まで操法大会は、参加すればそれで良いというようなところがあって、それなりに練習はするけれど、大会が終わればそれで終わりみたいなところがありました。しかし、この度気持ちを入れかえて練習したら、良い成績を取ることが出来ました。このことにより、団の中で団結力ができて、消防活動以外でもつき合いが増え、交流が深められました。みんなが熱くなれる活動ができれば、入団間もない若い分団員が操法に興味を持つということで、分団内が活性化されると思います。

操法大会の練習を通じて、消防団活動をやるなら本気でやろうと思いました。自分達の分団、他の分団の人と触れ合う中で、いろいろ勉強させてもらい、仲よくもなれましたし、いろんな話も聞けたので、操法大会の練習は、自分自身にとってはとても役立ちました。

成績が開示されないと、憶測になってしまうので、合計点だけでも開示していただけたらと思います。色々犠牲をはらって一生懸命やっていることなので、どこが悪かったのか知りたいと思います。

ポンプ操法は団の活性化に対し、大きな方策の一つだと感じています。以前、全国大会で開催されたポンプ操法の番組がありまして、視察旅行の際に、我々はその番組で取り上げられた分団まで出向いて行ったのです。違う分団の方々と出会って感じたのが、同じ物に対し、皆と気持ちを共有化でき、頑張っていこうという気持ちになったことです。

当市では操法訓練はありません。トライアルゲームという、実践に即した水出しの訓練を、6分団ほどで寄ってやっています。障害物はここにありまして、火点はここにありまして、水利はこっちにあります、その中でホースは何本出して、どういう経路を通るか、そういう想定は全て各分団で考えてくださいという内容で行っています。出勤訓練みたいなものです。実践に即してやるからこそ身につくというのがあります。当市では実際現場へ行ったときに困らない方法というのを基本から訓練しています。これが自分の身につくことで、自信になり、やる気生まれ、団結力が高まり、消防団の活性化につながると考えます。

最初に操法大会へ参加したときは、何故こんなことをするのかという思いがありました。しかし、実際に出場させてもらおうと、規律の面など重要な役割を果たしていま

すし、自分としても随分のめり込む部分がありました。大会に出たときに感じたのは、審査の基準がまちまちだったことです。チーム内では、これは統一しなければならぬだろうという話をしていました。

僕達はホースを購入したりして、自治会に大きな負担をかけました。問題点としては、町大会のルール、地区大会のルール、それが直前になるまで分からないというのが、練習していてわかりづらいです。地区で、はっきりと統一的なルールが必要だと思います。直前までアバウトな部分が多過ぎると思います。選手にも大きな負担がかかっています。

地区大会の審査員が市によって偏りがあったので、できたら透明性を出すために各市町村から審査員を出してもらったら、より納得のいく点数がつけられると思います。

操法大会の結果についてなのですが、旧町で操法大会があった際には、減点加算方式で、その点数は、最終的に後で公表されていました。ところが市に合併してから、その操法大会の結果が公表されなくなりました。操法は、実際の火事のとときに、これほど役に立つ訓練はないと思っていますので、操法に出る選手はもちろん、それを指導する側も、技術が向上していくと思っています。結果はせめて分団長ぐらいには公表して欲しいです。

操法を審判している人間が、操法を習熟しているのかが疑問です。年に一度消防学校で勉強されているみたいですが、審査をする人間がきちんとしていないと、点数をもらっても納得できません。

審査の一番長になる人は、その大会中全部、人を変えないで通してもらいたいです。

私達の地区は操法にあまり力が入っていません。それが代々続いているので、幹部連中が、選手達へきちっと教えることができないのです。消防署の人の指導日が割り当てられていますが、それを増やしてもらうのも多分酷だと思いますので、マニュアル的な、本職の人がきちんとしているようなDVDなどがあれば、多少なりとも勉強にはなると思います。

正直なところ、何のために順位をつけてやっているのか、全く意味がわかりません。週2、3回集まって2時間、3時間練習するぐらいなら、月1回研修してやった方が良いと思います。操法を覚えるという意味であれば、ある一定の合格ラインを作り、それに合格するようにすれば良いと思います。

7 女性消防団員について

最近増加傾向にある女性消防団員についてどのように考えていますか。

我々の団に最近女性団員が1人入ってきました。女性の方がパワーありそうですし、もっと女性団員の入団促進をしてはどうかと思います。実際に女性団員の人を見ていても女性の方がパワーがあります。

私達の市にも女性消防団はありますが、実際何をしているのかわかりません。広報活動をしているらしいんですが、活動内容は知られていません。市のイベントに出ているところを見かけるぐらいしか活動内容がわかりません。もっと女性消防団にも表に出てもらい、活発にしていけないと思います。

私達の町の女性消防団の方は、全員40歳までの人ばかりです。ということは子供が小さいので、何かあった時は自分の子供を守らないといけないので、いざというときの活動はできないと思うのです。救助、救出にしても、AEDの活動にしても、大規模災害があったときは活動しにくいと思います。今、消火啓発の広報活動として、小学校、幼稚園、保育園で、紙芝居や劇を行っています。これは、自発的に回っているのですが、自分たちで劇を考えて、そういった面ではPRになっていると思います。

当市の女性消防団員は、活動として、結構会議をしたりしますが、意見が飛び合っ
て言い合いのようになります。しかし結局は仲がよく、反省点を活かして今後に繋げ
て行っているので、良い意味の言い合いになっているという感じがします。

女性団員は、3月に男性向けのCPRの講習などを開催します。女性団員が資格を
取り、男性団員へAEDの使い方を教えています。

女性消防団員の存在を、正直知りませんでした。何かの機会に、女の人がいると思
ったのが正直な感想です。しかもどんどん人数が増えているようで、若い人から年配
の方まで入団されているようです。消防無線で女性の声が聞こえたりすると、これは
新しい動きだなと、良い刺激になります。女性ならではの活動というものもあると思
うので、もっと増えたら良いと思います。

8 市町村合併、団の再編成について

市町村合併により団の組織が変わったところもありますが、どのような点が変わり、日頃の活動に影響が出ていることがありますか。

春と秋の防火週間、火災予防週間のときに訓練しています。今までは各町ごとに訓練をしていたのですが、合併したということで、合同で行うようになりました。そんな中で、各町の消防団のやり方みたいなものについて、意見交換できるようになったのではないかと自分では思っています。

私達の団は、4町が合併し、1団になったのですが、現場のレベルでは、そう変わったという実感はないです。それぞれの町で訓練があって、さらに町全体での訓練が1回増えたというぐらいです。それぞれのやり方については、上の人が横並びに変えていかなければならないということで、苦労されているようですが、下から見ればそう変わったという実感はありません。

4月から1団になることに対しての不安がありまして、それは初出など市の行事活動に参加した場合のことです。私達の団は人口的に少ないので、行事などで市の中心まで出動するように言われても、もしその間に火事が起きたらどうするのかということが、見えていないと思います。上の人に問いつめても分からないと言われるので不安です。

私達の市は合併して1団となり、統一的な運営になりました。今まで、それぞれの運営方法や考え方があったので、それを統一することは難しいです。合併して数年経ちますので、少しずつ慣れてきましたが、まだ細かい部分では色々と難しい面もあります。一つの消防団として団結してやっていきたいという思いがあるので、思いを伝える場があればそういったことも伝えていけたらと思っております。

来年度から私達の部は自衛消防として移行されることになっています。大きな原因としては人数の減少で、僕達の住んでいるところでは、これ以上若者が増えないということで、移行することになりました。不満はないですが、どこの地区も若者が減ってきてこれからどうなるのかという不安があります。

私たちの市は合併しまして、消防団も一つになりました。その中で、私は、もともと地元部落の区の消防に所属しておりましたが、特設消防団ということで私達の地区、7地区からそれぞれ協力として集まったような形で15名の特設分団というもので活動しております。その関係がありまして、やはり人の入れかわりというのがあります。ほかの管内といいいますか、管轄内の各分団で入れかわりをして、そこから人が入れかわると

というような状況になっております。そういう体制になったのはここ2年ほどなので、これから検討していく段階で、まだ確立はされておられません。ただ、火災等につきましては、今年度4月以降につきましては、かなり少なく、4月の出初めの日の1日だけで4件の火災がありまして、どうなるだろうと思っていましたが、その後は特に大きな火災もなく、よかったと思っております。

9 その他（自由意見）

日頃の消防団活動に関して感じていることについてその他何かあれば…。

以前、ポンプ操法に出て優勝した時、市のホームページを見ていると、以前の優勝チームが掲載されていたので、これで自分達も市のホームページに出られると言っていたのだが、ずっとホームページが更新されないままでした。今後の若い人に受けがよくなると思いますので、できるだけ頻繁にホームページをアップデートしていただけたらと思います。

この意見交換会を皆が知らずに来ているから、1枚のアンケートのようなものに、今の現状がどうかというのを集計したものを持ってくるなどした方がいいと思います。

今日私達は若手ということで出席させてもらっているが、30歳を超えています。お話を聞いていると、多分班長さんとか、分団の上の方も来られていると思います。若手と言われる年代の方々は、こういう話を聞ける場があるということはご存じなのかなというのがまず一つあるのと、役職についていない団員も、こういう場があるのを知っているのかなということを思います。恐らく分団員全員が消防団の年間の活動を100パーセント知っているかということ、疑わしい。どのような活動をしているかもわからない状態では、勧誘すら出来ないのではないかと思う。勧誘を若い人がするのか、役職を持っている方が行うのか、考え方がそれぞれ違うと思います。どこまで皆が理解をしているのか分かりません。今日参加させてもらいましたが、実際に意見交換と言われて、色々質問をされますが、知らないこともたくさんあって、余り意見を言えていません。

私は実際にこのような意見交換会が毎年行われていることを知りませんでした。このような意見交換会の結果は最終的にまとめると思いますが、そういうものを各消防団とか、若い人にも回るように、分団に1冊、2冊とか回るようにして、そうやって目を通せるのであれば、皆若い人にも認識が出ると思います。

制服・活動服のデザインはすごく格好よくていいと思います。予算の関係もあると

と思いますが、洗い替えを支給していただけたらと思います。

私は電気工事関係の仕事をしていまして、作業服の作りがすごく気に入っています。裾のところがチャックになっていて長靴を履く時に調整することができます。あと、股の部分が二重になっているので、しゃがんでも破れないようになっています。消防団の活動でもしゃがんだりすることは多いです、活動服の作りも考えていただけたらと思います。

消防署の広報さんにお問い合わせがあるのですが、去年1月1日に火災がありまして、そのとき、1日の朝から消防団員は皆呼び出されて、夜まで消防活動を行いました。後で新聞を見ると、消防団という名前が全然ないのです。消火活動は消防署員並びに関係者と記されていました。団員からは、何故こんなに一生懸命やっているのに、新聞にも出ないのかという声も聞いています。これは、消防団員の士気の向上にも影響してきますし、僕達は後方支援という形なのはわかりますが、やはりそういうところでもアピールしてもらわないと、活動を分かってもらえない気がします。

当市は、出勤訓練をよくやります。本部からどこで出火という形で情報を得、分団の小屋の中で水利地図などを広げて、どこから水をとってとかいう、結構実践的なことをしますが、行くまでの間に信号が何個かあり、そこはやはり止まらなければならなくて、例えばそこでサイレンを鳴らして行かせてもらえとか、そういうことができたら、こちらもテンションが上がります。また、建物に行き、ホースをつないで消火するまでだけはするのですが、これを本当に火をつけて消火もできたら、ホースの位置とかの勉強にもなると思います。

今まで消防団活動というのは、上からの指揮命令系統が下まで伝わるというのが本当に大事なことでした。しかし、団の活動の中で、それが今の時代に合っているのかということがあります。活動するけれど、なぜこんなときに行かなければならないのかとよく聞きます。そこで私達は、下の子に対し、今思っていることをすべて言ってくださいという場を作りました。これは、深夜まで大激論大会になり、本当に分裂状態になるまでいったことがあります。しかしその中で色々なうみをだすことができましたし、新しい活動、団結力を高める上で、みんなの意見が必要だということが、今さらながらにわかりました。やはり団結力を高めることが一番の団の活性化になると思います。外にアピールというだけではなく、まず自分の中から、分団の中からの活動に対する気持ちから変えていこうというのが今一番あります。いわゆるモチベーションを上げることが一番の活動の基点になると思っています。それがあからこそ今後の活動に生かせると思います。

演習の後、若い方は早く帰宅したいとか、他に予定があるようですが、自分たちより上の方は、演習後の付き合いも一つの親睦になりますし、そういったところで普段できない話とかもしています。そういった付き合いの必要性も、若い人につないでいかなければならないというのが、今思っているところです。

最初僕は、消防団が何をやっているのかが分からなくて、出勤しても、役割を与えてくれないし、何をすればいいかわからないというのがありましたので、これから入ってくる新入団員には、入ったらこうする、ああするということを、一から教えていきたいと思っています。

日曜日とかに人を集めるというのは非常に苦勞する部分があります。私達の市は合併してできたので、市で集まる場合、地域ごとに並んでしまうのです。そうすると、もともと団員数の少ない地域なので仕方ないのですが、第三者の立場から見ると、並んだ時に、この地域は少ないなというふうに思われがちなのです。そこが少し辛いです。

消防団活動と地域の活動のメンバーが一緒です。しょっちゅう顔を合わせているので、交流は特別やっていません。ただ過去には年に1回ぐらい皆で旅行したりしていましたが、最近はなかなか全員の都合を合わせるのが難しい面もあり、途絶えています。若手の中からは旅行しようということ言う子もいるので、ぜひとも復活させたいと思っています。できるだけ分団の中で若手の意見を聞いて、堅苦しくならないような消防団でありたいと思っています。

私達の団は全員がサラリーマンで、平日の昼間に地震が起きても誰もいません。ということは、昼間何か起きたら救助する人が全くいないので、機能別分団があればいいなと思います。

地域の中で人脈をつくるという意味では、青年団もそうですが消防団も良いと思います。しかし今、自治会のほうで消防に対して年々助成金が減ってきたりして、自治会として消防団の活動に協力的ではないところもあるので、若い人も入りにくい状況があると思います。自治会などに、地域の中で消防団が大切だということをもっと言っていかなければならないと思いますが、消防団は、酒飲んで飲み食いしているだけだという認識を持っている人が多いと思います。しかし今、色々行事ごとに駆り出されたりとか、もちろん訓練もしているので、その辺の認識は昔に比べたら低くなってきたように思います。

僕自身、消防団にそこまで魅力を感じているかといえば、正直感じていません。僕はよそから今の村に入ってきたので、古くからの村のつき合いというのを全く知らないのですが、古くからいる子供達を見たら、子供会からの延長線で、言ってみれば大人の子供会のようなものです。たまに集まってわいわいやっているのを見ると、結構楽しそうな団体に見えますが、知らない人にとっては分からないから、伝え方が難しいと思います。火災があっても、僕達は本物じゃないので、火の中に入ることもなければ、水を出すこともないし、交通整理ぐらいしかできないため、魅力というのは余り感じません。サイレンを鳴らして行くときは興奮していますが、そのぐらいしか魅力はないです。

私は会社員ですので、団活動で自分が抜けた分は、土日に黙って出勤しています。そういうことで、会社側には目をつぶってもらうようにはしています。会社にも、自分が分団長をやっていることは言っています。分団長が参加出来ないということになったら、下の者がついてきませんので、その辺は会社側に理解してもらっているつもりです。

詰所がありません。どこか場所があればいいのですが、なかなか無いのです。詰所があればみんな、もう少し集まってくると思います。ただ、場所が繁華街なので、消防活動をするとしたら、電話をかけたらずいぶん早く来る状態なので、あまり団の活動は浸透していません。あとは、ボランティアでこの地域の行事が何かあったら、皆駆り出されている状況です。

村の行事、警備など、消防団がするのが当たり前になっています。今、行政に言いたいことは、行政は、消防団に消防団活動をさせているのか、委託していただいているのかという辺りです。僕達の考えは、市に対して、してやっているとっています。してやれているのにPRしろとか、人員確保するのにどうすれば良いか聞くのは、僕達にしてみれば、答えるのがしんどいと思うのです。行政も、増やすためにはどうすれば良いか考えて欲しいと思います。

(財)兵庫県消防協会

〒650-0011

神戸市中央区下山手通4-16-3

TEL: 078-333-8073

FAX: 078-333-8076

URL <http://www.hyogoshoubou.jp/>